飯田女子短期大学
２０１６年 3月

FD通信 No.8

飯田女子短期大学　FD委員会　　http://www.iidawjc.ac.jp

自然と行われるFD活動の必要性

FD委員長　北林ちなみ

平成19年7月にFD委員会が発足し、手探りの中でFD活動の内容を検討するところから始めて、今年で8年半が経過した。途中、FD 委員会は教務委員会に統合されて、教育の質の保証という点から教務委員会の活動の中で FDを考えてきた時期があったが、今年度からまたFD委員会として教務委員会の付属組織で活動を再開した。

FDという言葉が聞かれないころから教員は学生の学びを意識して、授業後にレポートやアンケートなどを用いて授業内容の評価を個々で行ったりしていた。しかし、短期大学全体でFD活動を行っていかなければ効果がなく、本学および各学科・専攻のDP、CPを達成できない可能性が高い。最初はFD委員会からの促しによって授業改善アンケートの実施や学内公開授業への参加、FD講演会や研修会への参加をしていた状態だったかもしれない。現在では活動を始めた頃と比べると、教職員全体が自主的に実施していると感じる。

本年度も殆どの専任教員が授業改善アンケートを実施し結果の検討を行っており、学内授業公開でも学科・専攻内の教員間で授業の実施と授業参観を行った後に振り返りが行われ、授業の改善に効果をあげている。また、FD研修会では、各学科・専攻に分かれて学生満足度アンケートの結果をもとに授業を含めた教育の課題について検討を行い、具体的な解決方法などが発表されていた。今後その結果を生かして、少しでも学生の学びに対する満足度が向上するように、学科としての取り組みや教員個々の授業方法などが改善されていくことが望まれる。

加えて、授業や行事、学生の対応などで日々忙しく過ごしているが、学生の学びへの責任として教職員が自身を磨いていくことも必要である。学会や研修会への参加、自分の研究課題に取り組むなどして、知識や技術などが古く錆びてしまわないように努力することが短大教職員として重要である。

FD活動により教職員全体で教育改革の取り組みを行っていかなければ、今後短期大学として存続していくことが難しいといわれている。いろいろな場所でFDの勉強会や研修会などが行われ、多くの大学や短期大学の関係者が参加して、FD活動のノウハウを学んでいる。それを見ても他の大学でもFDに力を入れていることが覗われる。これからもFDの必要性を理解し、自然にFDが行われ授業を見直すことで責任を持って授業を行い、ひいては学生の学びと教育の質の保証につなげていくことが必要と考える。

目　次

自然と行われるFD活動の必要性　FD委員長　北林ちなみ　ページ1
＜FD研修会＞　グループディスカッションを通して見えた学生像、および課題と対策
～キャンパスライフに対する学生満足度アンケート結果より～
FD委員会研修担当　本島幸子　ページ2
家政学科　小瀬木一真／ 幼児教育学科　相澤里美 ／ 看護学科　細田裕子　ページ3
＜特集：新たな授業の取り組み＞
看護学科　キャリアデザイン担当　武分祥子　看護学科　伊藤未来　ページ4
＜キャンパスライフに対する学生満足度アンケート実施結果＞　教務課長　林　正樹　ページ5

＜FD 研修会＞

グループディスカッションを通して見えた学生像、および課題と対策
～キャンパスライフに対する学生満足度アンケート結果より～

去る３月２日（水）に FD 研修会が開催されました。ここ数年、毎年行われている全学生を対象にした『キャンパスライフに対する学生満足度アンケート』結果の平成 26 年度と 27 年度の 2 年分のデータからピックアップされた FD に関するデータを基に、学科・専攻毎にグループディスカッションを行いました。データから読み取れることやそこから見える課題、今後の対策などについて 90 分程話し合った後、グループ毎に討議結果を発表しました。

討議の結果、1 年から 2 年へと学年が上がることにより全体的に評価が高くなる傾向にあり、演習や課題提出などの積み重ねにより満足度がアップしていくことが示唆されました。その中で初年度からの意識的な教員の働きかけが功を奏しているため、継続して行っていくという話がありました。しかし、計画性・スケジュール管理能力やリーダーシップ能力、プレゼン能力、本や資料などを読む力などについての評価の低さを指摘するグループがあり、今後の課題も明らかになりました。これらの課題への対策については、即実践可能な具体的な内容が数多く提案されました。また、クラスによりカラーの相違があることから、その特徴を踏まえた関わりも大切であると語られました。

学生が必要な能力を身につけ満足して卒業するための方策の一つとして、教員が学生像を捉えたうえで教育に対する考えを共有し、具体策を練る今回のような研修は大変意味深いと考えます。

（文責　本島幸子）

＜FD 研修会　感想＞

FD 研修会に参加した先生方に、参加後の思いや感想をお寄せいただきました。

「FD 研修会を終えて」

家政学科　小瀬木一真

３月２日、看護棟多目的ホールにて平成 27 年度 FD 研修会が開催された。FD 研修会では、資料（平成 26 年度および平成 27 年度キャンパスライフに対する学生満足度アンケート結果）を基に学生の実態を把握し、どういう学生を育てたいかというテーマで、現状の課題と今後の対策について話し合った。アンケート結果を分析することは、私にとって学生の実態を客観的に見るとてもいい機会となった。また、グループディスカッションでの意見交換から、基礎学力の不足、学生間の学力差、コミュニケーション力の偏り、個人指導が必要な学生の増加などアンケート結果だけでは分からない課題が浮き彫りとなった。これらの課題に対し、全教員が協力して取り組むという意識を共有できた。

今回の研修会では、同じ専攻の先生方と共通のテーマについて深く話し合うことで、協力して教育活動を実践しようという気持ちがより強くなった。来年度、この気持ちを生かして教育活動に取り組みたいと思う。

「FD 研修会での学び」

幼児教育学科　相澤里美

短大の教員になってから 1 年が経ちました。振り返ると、毎回の授業を準備することに奔走していたため、指導内容や方法を学生の実態に照らし合わせて考えたり、上手くいかずに悩んだことを他の教員に相談したりする機会が十分ではないと感じていました。そのため、私にとって本研修会は、学生の実態を知ると同時に、ディスカッションを通して他の教員と意見を交わすための良い機会となりました。

ディスカッションを通して、学生の学習成果と学校への満足度の間に関係があるということがわかりました。また、学生が自身のコミュニケーションや他者との協力、リーダーシップの能力が向上したと評価しているのは、実習の体験や実践的な授業の効果によるのではないかと考えられました。それらの能力は保育者として大変重要な能力であるため、実習を通して自然と身に付いたり一部の授業で指導されたりすることに期待するのではなく、全体で指導していくことが求められると思いました。

2 年目は必要な知識を教えることに加え、保育者としての資質・能力を育てることも意識し、学生への指導を行っていきたいと思います

「FD 研修会のグループディスカッションに参加して」

看護学科　細田裕子

看護学科 1 グループでは、平成 27 年度キャンパスライフに対する学生満足度アンケートの「入学時と比べた能力や知識の変化」から、学生の課題と傾向、学生への学習支援方法について話合いました。アンケートから気になった点に、「リーダーシップ能力」と「プレゼン能力」が、「あてはまらない」、「どちらかといえばあてはまらない」が約 3 割と他の項目に比べてあてはまらないと回答した学生が多いことがあがりました。プレゼン能力を向上させるには、論理的に「読む」「書く」力をつけ、自分の考えや調べたことを整理し表現する力を身につける必要があります。その上で、人前で自分のことを語ることを経験し、アウトプットする力を身につけていけるのではないかと考えました。これらのことを学生が身につけていくことができるようにするために、教員も意識的に関わっていくことが必要になってきます。学生が論理的な思考を経験できるよう、ディスカッションの機会を設けたり、レポートに書かれた学生の気づきを深めていくやりとりを行ったりすることが効果的ではないでしょうか。このようにして学生の力を向上させるためには、教員が一人ひとりの学生と丁寧に関わり指導していくことが必要になります。教員が共通認識をもち、学生に関わっていくことが必要だと感じました。

＜特集：新たな授業の取り組み＞　新しい授業の取り組みをされている科目を授業担当者からご紹介頂くコーナーです。今回は、看護学科の「キャリアデザイン」での取り組みについて原稿をお願いしました。合わせて、その科目を受講している学生さんにも、先生方の授業改善への取り組みをどう体験したのか寄稿いただきました。

看護学科でのキャリアデザインへの取り組み

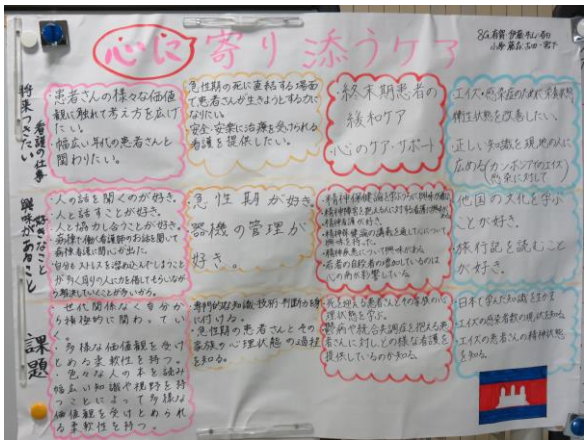
看護学科　キャリアデザイン担当　武分祥子

はじめに　看護学科では、平成 25 年度より１年次通年科目として、キャリアデザインを授業に取り入れ、今年度で 3 年目を迎えました。この看護学科教員全員が参加するオムニバス科目のこの２年の取り組みを振り返りたいと思います。

授業の概要　キャリアデザインは、①看護専門職としてのキャリアデザインを描く、②看護の役割を考える、③他者に伝えたり討論したりする力を身につける、④物事を正確かつ批判的に読みとり論理的に論じる、以上の４つを到達目標としました。これらを達成するために、15 コマの授業計画を立てました。具体的な内容は、ロジカルライティングの手法に依拠した（以下、L.W 的とする）「看護職の場の広がり」や「将来取り組みたいこと」の個人ワーク・グループワーク・プレゼンテーション、看護学科教員が作成した『こう学習すればわかる　聴く・読む・調べる・書く　コツはこれだ！』に基づいた「伝える力」を磨く作業で構成されています。

学生の個人評価　この授業では入学したての４月と最終授業の１月に授業内で書いた文章について、論理的に書けたかどうかを９点満点で自己採点しています（L.W 的チェック）。加えて、最終授業でシラバスに沿って 10 項目（「要点を聞き取るコツは身についたか」「ノートをとるコツはつかめたか」「自分のキャリアデザインを描くことはできたか」等）を４段階（４点「できた」から１点「できなかった」）で自己採点しています。この２年間の結果を見ると、L.W 的チェックでは、４月より１月の方が全体平均で２点ほど上がっています。シラバス内容の自己評価 10 項目では、どの項目も平均３点以上でした。よって、１年間のキャリアデザイン受講により、学生は自分の将来像がより具体的になり、「伝える力」が伸びたと感じているといえます。細かな分析をみると、各学年の集団としてのカラー等がみえている気がしますが明確に判断は出来ないので、今後このスタイルの授業を継続する中で分析を重ねていく予定です。

おわりに　この授業を２年間取りまとめた中で一番印象に残っていることは、学生のプレゼンテーションの面白さです。各学生の個性が光った姿やグループの工夫を見ることができて、私にとっても教育の面白さを実感した貴重な時間となりました。このような１年次の様子を踏まえて、２年生、さらには３年生へと成長過程に寄り添えることは教員としてとても嬉しいことでもあり、少しでも何らかの支えになれればと強く思います。学生のプレゼンテーション時の資料の一部（写真）を添えさせていただきます。



キャリアデザインの授業を受けて

看護学科　伊藤未来

自分は看護師になってどんなことがやりたいか、そのためには何を考え、何をすればよいのか、と自分の人生を自ら描いていく「キャリアデザイン」という講義を一年間受講し、ありたい将来像を少しずつ明確にすることができたと感じる。そう感じたのは、本学を卒業し、現在臨床の場で活躍されている先輩方との交流会と、将来つきたい看護の仕事や取り組みたいことについてのグループワークで学んだことからである。

一つ目の本学を卒業し、現在臨床の場で活躍されている先輩方との交流会では、看護専門職者として日々看護実践をしている先輩方から多くのことを学び、「今やっていることは何ひとつ無駄ではない」と心に響く言葉を頂いた。短大生活は日々の勉強に追われ、何度も心が折れそうになることがあるが、先輩から頂いた言葉を大切にし、看護師になるという気持ちを強くもって生活していきたいと考える。

二つ目の将来つきたい看護の仕事や取り組みたいことについてのグループワークでは、各分野に分かれてグループワークをし、プレゼンテーションを行った。私は、訪問看護師の分野でグループワークを行った。将来、訪問看護師を目指すクラスメイトと知識を共有したり、どのような看護ケアが必要であるのかという話し合いを進めたりしていく中で、訪問看護師への気持ちが強くなった。

キャリアデザインを通して、将来の看護師像を描いていくことで自分と向き合うこができた。キャリアデザインで学んだことを大切にし、これからの勉強も頑張っていきたい。

キャンパスライフに対する学生満足度アンケート（平成 27 年度）結果

教務課長　林　正樹

このアンケートは、学生に向けて知識・能力の変化、教育に関する満足度を調査し、教育内容の成果、教育活動の充実を図るためのものである。各項目ごと、当てはまる、まあまあ当てはまる、あまり当てはまらない、当てはまらないの４段階の選択肢とした。対象在学生数 517、回収数 443、回収率 85.7%（昨年は 88.4%）であった。入学時と比較した能力や知識の変化について最も満足度が高かったのは、「専門分野や学科の知識が増えた」で、当てはまる、まあまあ当てはまるが 97.2%になった。ただし「キャリア意識・職業観が高まった」は 88.1%で 10%近い開きがある。各学科・専攻で設定しているキャリアデザインの授業を更に有効に活用していくことが望まれる。また「リーダーシップの能力が向上した」は 60.6%、「プレゼン能力が向上した」は 54.9%にとどまっており、アクティブラーニングなどの学生参加型の授業の実施が必要となる。教育への満足度は「専門科目の授業」が最も高く、91.3%が当てはまる。「学習に関する支援・アドバイス」は 77.6%で、昨年度より始めたオフィスアワーが浸透し始めているが、学生に周知し活用できるよう促したい。「自分の学生生活に満足していますか」との問いには 77.4%の学生が満足と答えた。昨年 80.6%であったので若干下がっている。ひとつひとつの取り組みが学生にとり大切なものか確認しつつ、能動的に活動していきたい。この数字が上がることで、学生が卒業し社会に出た時、本学卒業に誇りを持って活躍する人を増やしたい。地域から学校への信頼も高まる。このアンケート結果を資料に３月２日にＦＤ研修会が開かれ、各学科専攻で討議が行われた。この機会を通じ教育内容、活動方針がより学生に周知されることを期待したい。ＳＤアンケートと統合された共同アンケートの形を今後も継続し、あらゆる場面において教職員間での連携、情報の共有をより活発にし、ひとりひとりの学生生活が充実するよう応援していきたい。

編集後記

FD 通信 8 号をお届けします。授業改善アンケートや授業公開といった取り組みが定着してきた数年だと感じます。そこで、新たに今回の特集では学生さんの視点を取り入れることとしました。アンケートにおいて学生さんの意見を拾い上げることができていますが、もう少し生の声を聞かせてほしいと考えたからです。授業そのものが学生さんと教員の相互作用と考えると、授業改善もそうありたいとの願いも込めました。（編集担当：坂上　ちおり）

飯田女子短期大学 FD 通信 No.8 （発行日　2016 年 3 月 31 日）
FD 委員会委員長　北林ちなみ
委員　　相澤里美　岩瀬彩香　刈部亜美　川尻由美子　熊谷教　坂上ちおり　林正樹　本島幸子
※FD 通信へのご意見ご感想をお待ちしております。　fd@iidawjc.ac.jp